

「男性の家庭進出」がもたらす「家族の幸せ」

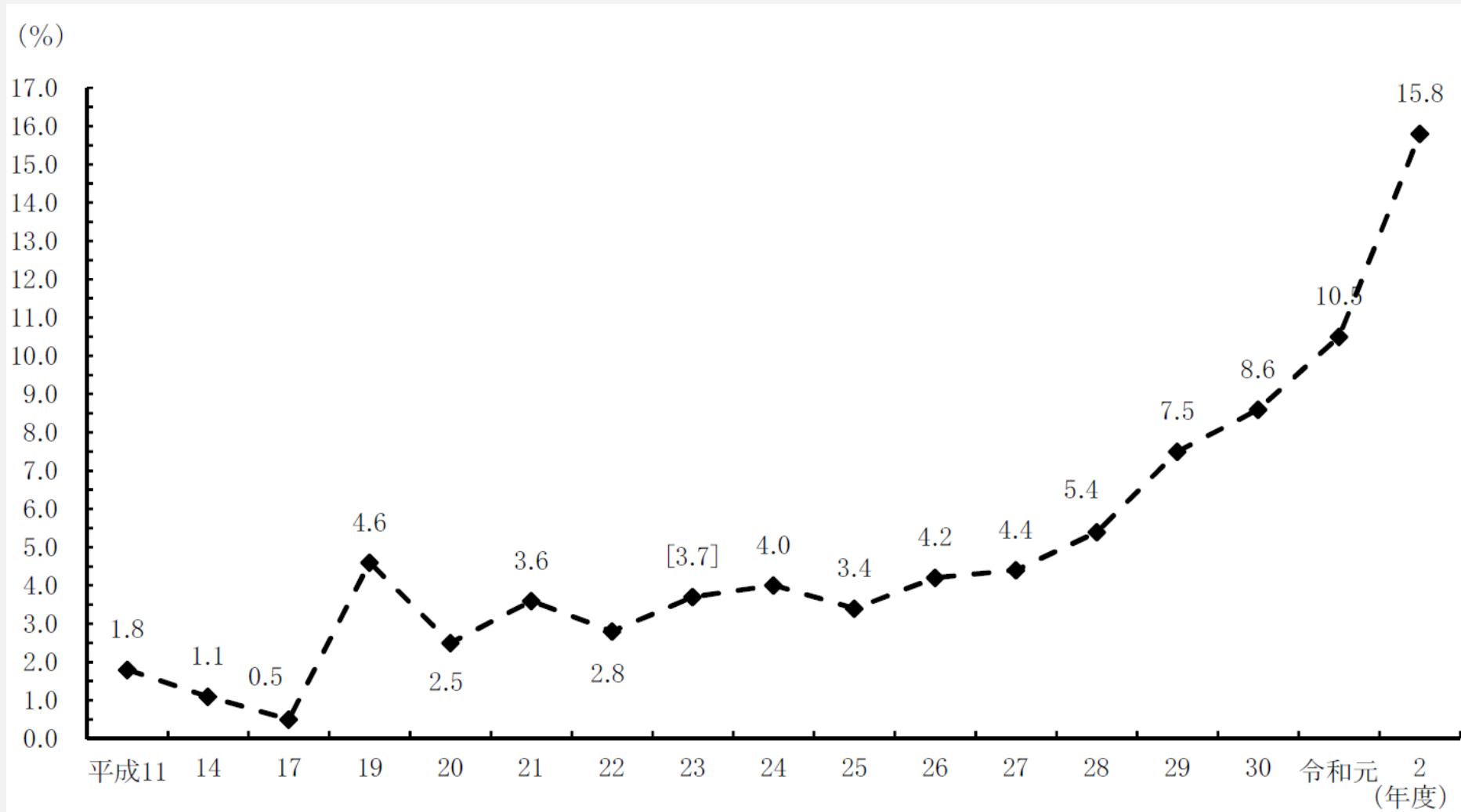
2021年12月15日
JSPS男女共同参画推進シンポジウム

東京大学 経済学研究科

山口慎太郎



日本の男性育休取得率は増加傾向



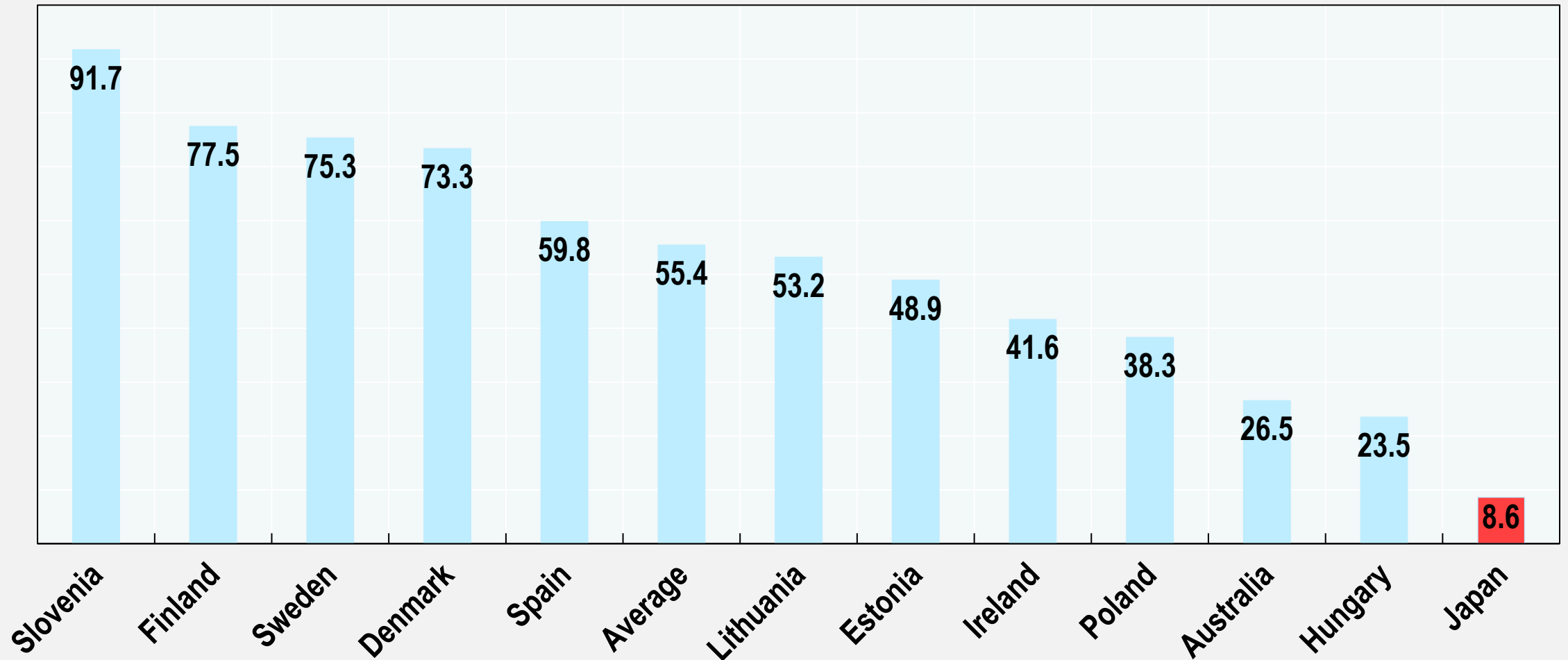
出所：厚生労働省 雇用均等基本調査

山口慎太郎（東京大学）



日本の男性育休取得率は低水準

男性の育休取得率（2016年）



出所：OECD Family Database

山口慎太郎（東京大学）



子育てへの影響

カナダ・ケベック州

- 2006年から、男性のみが取れる5週間の育休
- 給付金の引き上げ、利用資格の緩和など

育休改革の効果

- 育休取得率：21% → 75%
- 育休期間：2週間 → 5週間
- 3年後の子育て時間：**90分** → **110分/日**
- 3年後の家事時間：**70分** → **85分/日**

「たった1ヶ月」でも人生を変える1ヶ月に！

(参考) Ankita Patnaik (2019), "Reserving Time for Daddy: The Consequences of Fathers' Quotas," *Journal of Labor Economics*, 37:4, 1009-1059

山口慎太郎 (東京大学)



なぜ長期にわたる影響が？

オキシトシン

- 母親の出産、授乳に伴って分泌される「愛情ホルモン」
- 幸福感、信頼感を生み出す
- 男性でも子どもとのスキンシップで分泌される

子育てはすればするほど子どもが可愛くなる

(参考1) Eyal Abraham, Talma Hendler, Irit Shapira-Lichter, Yaniv Kanat-Maymon, Orna Zagoory-Sharon, Ruth Feldman, "Father's brain is sensitive to childcare experiences," *Proceedings of the National Academy of Sciences*, Jul 2014, 111 (27) 9792-9797.

(参考2) 池谷裕二、『パパは脳研究者』、2017年、クレヨンハウス



育休取得で子どもの偏差値も上がる！？

偏差値が1向上

ノルウェーで、子どもの16歳時点での偏差値が1向上した

なぜ？

- ライフスタイルの変化を通じて、父親が子育てに熱心になった
- 生後1年間の親子のふれあいが、父子関係にプラスだった

興味深い報告だが、学習時間の変化や具体的な父子の関わりは不明なので
要注意

(参考) Cools, S., Fiva, J.H. and Kirkebøen, L.J. (2015), Causal Effects of Paternity Leave on Children and Parents. *Scand. J. of Economics*, 117: 801-828.



離婚率への影響（アイスランド）

改革の概要

- 父親向け育休を2001年に1ヶ月導入
- 2003年までに3ヶ月へと延長
- 給付金は給料の80%相当

育休改革の効果

- 育休取得日数に占める男性の割合：3% → 33%
- 出産5年後離婚率：23% → 17%
- 出産10年後離婚率：33% → 29%

（参考）Arna Olafsson, Herdis Steingrimsdottir, How Does Daddy at Home Affect Marital Stability?, The Economic Journal, Volume 130, Issue 629, July 2020, Pages 1471–1500,



なぜ離婚率が下がるのか

子供は離婚の原因？

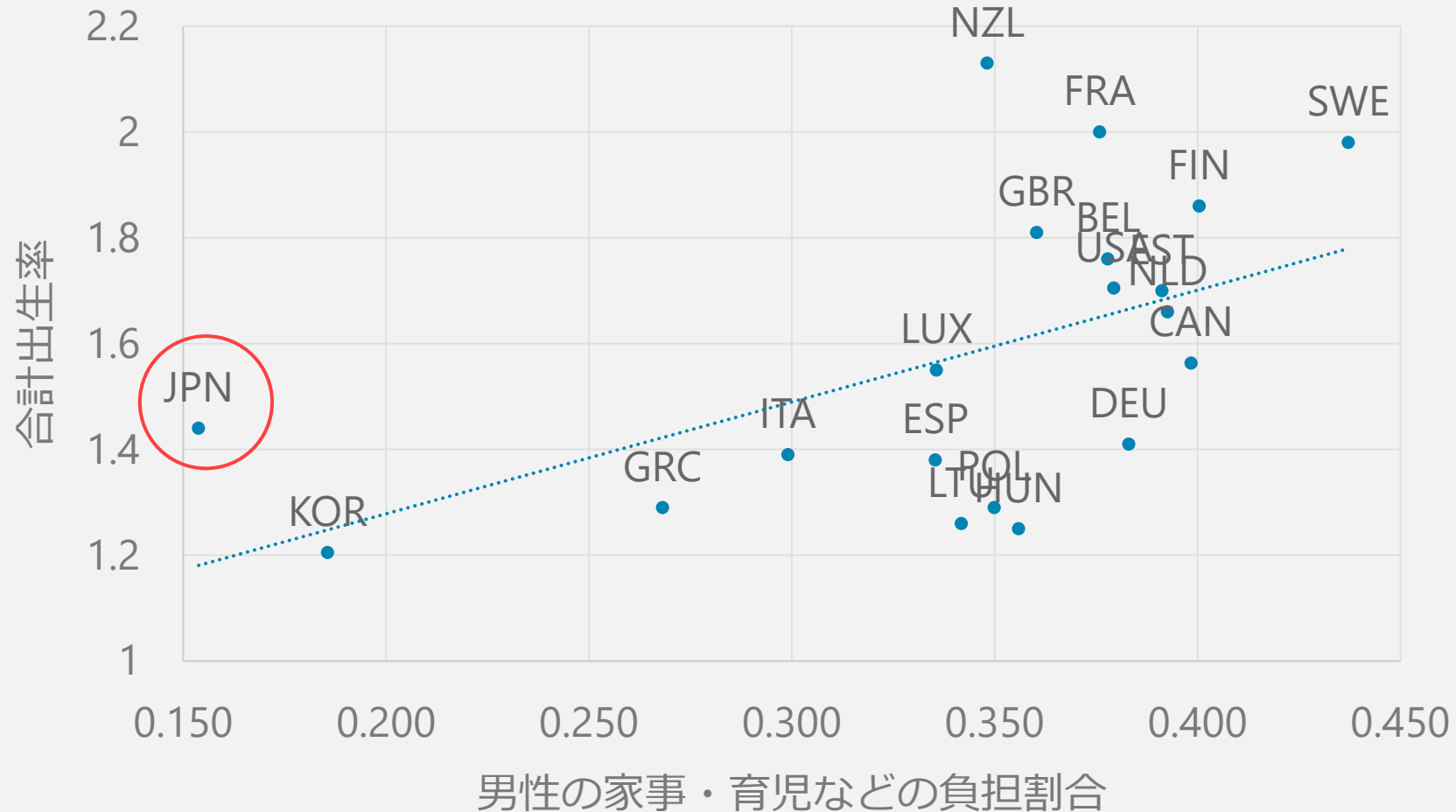
- 結婚に対する満足度を下げる傾向
- 夫婦だけで過ごす時間の減少
- 自分のために使える時間とお金の減少
- 自分のキャリアが子育てのために犠牲に

父親の育休取得がこうした問題を緩和

(参考) Arna Olafsson, Herdis Steingrimsdottir, How Does Daddy at Home Affect Marital Stability?, The Economic Journal, Volume 130, Issue 629, July 2020, Pages 1471–1500,



男性の家事・育児負担と出生率 (2010-2019)



出所：OECD Gender Data Portal 2021、The World Bank Open Dataより筆者作成

注：男性の家事・育児などの負担割合は、無償労働時間の男性平均と女性平均の和に占める男性平均の割合と定義。調査年が国によって異なるが、無償労働時間と合計出生率の対象期間を国ごとに一致させている。高所得国のみを対象。

山口慎太郎 (東京大学)

なぜ男性の家事・育児が重要か

- 夫婦ともに子どもを持ちたいと思っている場合、実際に3年以内に子どもが生まれている。
- 夫が望んでも、妻が子どもを持つことに賛成しないことが多い。
- 妻が賛成しない場合、夫が家事・育児を担っていないことが多い。

夫がより家事・育児を担うことで妻の負担を減らし、子どもを持つことに前向きになる。

以上、欧州19カ国調査 (Generations and Gender Program) より
参考：Doepke and Kindermann (2019)